

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年9月30日

【評価実施概要】

事業所番号	4570300618		
法人名	有限会社つだ福祉サービス		
事業所名	グループホーム四季の音		
所在地	宮崎県延岡市東砂浜町1-1-4番地1 (電話) 0982-28-2727		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番2-2号		
訪問調査日	平成21年8月12日	評価確定日	平成21年9月30日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「尊厳ある依存」という法人の理念を基に、グループホーム内においても今年、独自の理念を四季ごとに掲げ、理念に基づいたケアを職員全員で実践に向け取り組んでいる。田園風景に囲まれた穏やかな環境の中で、利用者もゆったりと家庭的な雰囲気にも生活している。職員は、施設内・外の研修にも積極的に参加し、向上心を持ってケアのあり方に努めている。地域密着となり、地域との交流にも積極的に取り組んでおり、理解や協力も得られている。利用者の生活歴や、家族歴により支援内容を考え、個別支援計画を立てて、寄り添うケアが行われている。利用者が表情豊かに穏やかに過ごしているグループホームである。

【情報提供票より】 (平成21年7月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成13年11月11日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤9人, 非常勤0人, 常勤換算9人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,500 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	400 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成21年7月23日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	0	要介護2	4		
要介護3	3	要介護4	1		
要介護5	1	要支援2	0		
年齢	平均 83歳	最低	72歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	長沼医院、延岡保養園、グリーンヒル歯科
---------	---------------------

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、改善項目はないが、今回は改正された理念の項目を今後の取り組みに生かせるか期待したい。災害対策では夜間対策訓練を行い、研修会においても積極的に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価には全職員で取り組み、ミーティングで話し合われていた。職員全体の意識も高く、職員も日々のケアの振り返りの機会や新たな課題を見つける機会にするなど、自己評価、外部評価の意義を十分に理解し取り組んでいた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、市の職員、福祉大学の教授、民生委員、家族、利用者代表が参加し、議題も現況報告、災害対策、現在の問題点などが挙げられ、活発な意見交換が行われている。問題点に関しては、福祉大学の教授からのアドバイスがすぐに現場に生かされている。運営推進会議の参加者がボランティアで来訪するなど会議を生かした取り組みができています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族は、利用料の入金で毎月来訪するようになってきているため、職員は来訪時に会話をするように努めている。家族との関係作りにも配慮しており、苦情等は現在はないが、意見が出しやすい雰囲気作りができています。意見、苦情等が出た場合には会議等で話し合い、職員間で情報を共有する仕組みができています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の方がボランティアで来訪し料理教室等が開かれている。災害訓練等においても、地域の方の協力が得られている。ホームも地域の行事に参加し、運営推進会議を通しホームの行事に地域の方にも参加してもらう等、地域との日常的な連携が図れている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体の理念を基に、グループホーム独自の四季に応じた理念を職員全員で話し合い作り上げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は朝夕のミーティング時や日々の業務の中で、理念の共有と実践に向けて話し合い取り組んでいる。	○	今年、法人、グループホーム独自の理念が改正されたばかりであり、今後新たな理念が浸透されていくことが期待される。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方からの差し入れや災害時においても協力してもらえる体制がある。行事等にも参加し、レクリエーションなどにおいて郷土料理を教わるなど地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価に取り組み、ミーティングで話し合うことで、日々のケアの振り返りの機会にもなっている。自己評価、外部評価の意義を理解し、評価を生かした取り組みが行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、現況報告などを行い活発な意見交換が行われている。メンバーには大学の教授も含まれ、具体的なアドバイス等が日々のサービスの向上に生かされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市とは、随時連絡を行い、連携している。現在も成年後見人制度などの相談を行い、問題解決が図られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の便りや随時の電話連絡にて利用者の報告を行っている。利用料の支払いで毎月家族が来訪されるようになっており、定期的な近況報告ができています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や電話連絡時に意見を聞くように努めている。家族との関係にも十分に配慮し、意見や苦情を言いやすい関係作りが行われ、それらを運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職や新規の職員の配属では、職員が利用者へのダメージを最小限に抑えるようにケアしている。利用者から新規職員への配慮が見られるようである。寄り添うケアにて利用者への支援ができています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	重要事項説明書の中でも採用時研修、毎月の研修がうたわれている。グループホーム独自の研修会も毎月行われ、外部研修にも交代で参加し、複命書の作成、伝達講習等も行い職員を育てる取り組みができている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡協議会、県北ブロックでの研修会に積極的に参加し交流する機会を作っている。意見交換を行いサービスの向上につなげるよう努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイサービスやショートステイの利用で、職員や利用者となじみの関係作りを行い、円滑なサービスの利用ができるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴や家族歴により本人の好みややりたいことを把握している。担当者会議においても情報収集を行い、ともに過ごしながら支えあう関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアや利用者の生活歴等により、思いや意向の把握を行い個別援助計画を作成し、本人本位の生活を送れるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々のケア、利用者の生活歴、朝夕のミーティングなどで利用者の把握を行い、家族においても随時意見を聞き、それぞれの意見が反映された本人本位の介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々のケアの中での話し合いや、朝夕のミーティングにて意見交換がされており、利用者の状態把握に努めている。変更が必要な場合には会議を開き、現状に即した介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ショートステイの利用やデイサービスとの交流、必要に応じて通院介助や理美容への送迎、ドライブ、外出支援など柔軟な支援がされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれのかかりつけ医へ、家族の付き添いが可能であれば家族が、困難な場合は職員が援助し、定期的な受診支援ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に重度化した場合の方針の話し合いがされており、状態悪化の場合にも随時話し合いがもたれている。終末期においても家族の意向があれば体制を整える方針がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	法人の理念である「尊厳ある依存」に基づき言葉掛けにも十分配慮し、記録等の取り扱いにも注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりを良く知ることによりそれぞれのペースを把握することができ、利用者の希望に沿った支援がされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態に応じた役割があり、職員も一緒に食事の準備を行っている。利用者同士の関係を考慮して席が決められ、職員も同じ食事を取り明るく家庭的な雰囲気の中、寄り添うケアにて食事を楽しむ支援がされていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月～土曜の午後に入浴日が決められてはいるが、毎日入浴される利用者もいる。デイサービスの入浴も可能であり、一人ひとりに合わせた入浴を楽しむ支援ができています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの状態や生活歴を把握したうえで個別支援計画により、役割、楽しみごと、気晴らしの支援がされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	法人所有の畑に出かけたり、車いすの利用者も散歩に連れ出す配慮がある。また、毎日散歩を行う利用者もおり、日常的に外出する支援ができています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関の鍵はかけておらず、デイサービス職員の協力もあり、全職員にて見守る体制ができています。職員が独りになる夜の時間帯は施錠している。		

宮崎県延岡市 グループホーム四季の音

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の災害訓練を行っている。夜間対策の訓練も実施し、問題点の把握を行っている。消火器訓練も行われ、地域の協力も得られている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの水分、食事量、排泄のチェックがされ、記録も取られている。水分量は一日を通してチェック表を利用し調節されており、状態に応じた支援がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には利用者一人ひとりの俳句の作品が飾られ、四季を感じさせる飾りつけもされている。清潔感もあり、座り心地の良さそうなソファも置かれ、居心地よく和やかに過ごせる工夫がされていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の状態に合わせたベッドが準備され、使い慣れた物が持ち込まれていた。仏壇や家族の写真も飾られ、居心地よく過ごせる工夫がされていた。		

※  は、重点項目。